

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 平成26年度関西学生バスケットボールリーグ	期間 平成26年9月13日(土)～9月14日(日)
開催地 大阪府・滋賀県	会場 大阪教育大学・滋賀県立体育館
参加者 松尾 諭	所属地区名 旭川地区
講師 特になし	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など 特になし	
実技研修、座学研修等の記録 特になし	
実践実技1(実技の数によって増やす)	
平成26年9月13日(土)	対戦カード(2部リーグ)大経大ー甲南大
副審 松尾 諭	相手審判 島根県 大下 俊氏(B級)
ゲーム前のカンファレンス内容 お互いに上級審判員を目指しているということで、日頃の地区での取り組み、現在の課題、ゲームでのポイントを話した。私自身の課題として、①より良い位置で判定することを、ゲーム終了まで続けること。②リードで、右側に行くケースの精選とリバウンド時の位置取り。という2点の課題を確認した。ゲームでは、早い段階でゲームのテンポを掌握するとともに、判定基準をプレイヤーやチームに知らせること。特に手や腕を不当に使うこと、ポストプレイやポジション争いでの粗暴なプレイに対してゲームにふさわしい判定基準を示すことを確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 特になし	
ゲーム感想 2部リーグの全勝同士ということでレベルの高いゲームであった。ゲームの入りで、ムービングスクリーン、ドライブ時の1線の不当な手の使い方等判定基準を示すことができ、クリーンにゲームを進めることができた。大経大がゾーンを仕掛けた際、2分割にして自分の左側のエリアを判定しようということ、エリア3でプレッシャーがある場合とリバウンド争いやその後のショットがリードの右側で行われるケースについては、自分の右側のエリアにも足を運んで判定をしようという具体的な確認をゲーム中にすることができた。自分自身の課題としてあげていた2点については、①良いポジションで判定することが多かったが、バックコートでプレッシャーがかかっているとき、トレイルにおいて追従が遅れ判定できずにトラベリングを吹けなかったケース、②の課題でもあるリードの際の右側に行かなかったがために吹けなかったリバウンドファールがあり、もっと予測する力を高めなければならぬと感じた。②リバウンドがリードの右側で行われるケースにおいて判定できない場合が多いということを感じた。これまでは、リードのリバウンド時の位置取りとして広く開いて縦のスペースだけでなく横のスペースも判定できるように心掛けていたが、右側でリバウンド争いが起き、またそこでショットがある場合は左に残ってはい判定できないと感じた。	
まとめ 北海道外でレフェリーを行うことは今回が初めてであり、また他の地区の方と吹くことも初めてであった。ゲームレベルも高く、この経験はこれからのレフェリー活動において大きな糧になると感じている。やはりルールブック、マニュアルブックは日本中どこでも共通のものであり、この2冊の熟読と理解に尽きると感じた。北海道内で取り組んでいることに自信を持つこともできたし、まだ足りないものがあるという確認の場にもなった。特にリードでの右側に行くケースの精選は今後も継続した課題とするとともに、ゲームコントロールという大きな枠組みでゲームを考えることとそのための表現力の向上も必要だと感じた。	
平成26年9月14日(日)	対戦カード(1部リーグ)流科大ー立命館
副審 松尾 諭	相手審判 岐阜県 相宮 俊郎氏(A級)
ゲーム前のカンファレンス内容 2人の協力(リード・トレイルともに右側で判定をしなければならないケースとその場合のもう一方の位置取りと視野について、アウトオブバウンズの協力)、TOの管理(昨日24秒計でトラブルがあった)、ベンチ管理の方法について確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 特になし	
ゲーム感想 1部リーグ下位同士のゲームであったが、昨日の2部にはなかったスピード・テクニック・強さ・高さがあった。ゲームの入りから、不当な手の使い方について吹き込まれてしまう場面があった。判定材料が少なく決断するまでに時間がかかってしまったために、このようなことになってしまったのだと思う。やはり、A級の笛は速く、判定基準を示すためには起きた瞬間に笛を入れなければならないのだと思った。タイムラグがあると、説得力の無いものになってしまう。また、スクリーンの際のアクティングで笛を入れてしまったケースもあり、どちらが先に仕掛けたのか、プレイを広く長く見る必要があると感じた。更に、昨日の課題であったリードでの右側でおこるリバウンド時の触れあいについて、足を運んで右側で判定したが、その後ミドル側に1on1を仕掛けられ、横のスペースとなって結局吹けなかったショットファールがあった。中途半端に右側に行ったために起こったことであり、思い切り右側に行けば判定できたのだと思う。成立していないトラベリングを吹いてしまったケースもあった。	

#### まとめ

昨日とはゲームレベルが違い、判定にブレができてしまった。このゲームを吹ききるためには、何よりも経験が必要だと感じた。北海道内のトップレベル(実業団・クラブ・学生等)での経験と、日頃の地区のゲームもより高いレベルで考えて判定することが求められるのだと思う。全道大会でもよく言われていることであるが、それを身をもって感じる事ができた。今後もプレイヤー・コーチ・観客がナイスゲームと思えるようなゲーム運営ができるレフェリーとなれるよう、より一層精進していきたいと思う。

今回はこのような機会を与えていただき、誠にありがとうございました。感謝の気持ちをコート上で表現することができればと思っています。